

# 自動車ユーザー連携賞

学生フォーミュラ大会の開催による

## 20年にわたる人材育成活動の継続

### 自動車技術会



自動車技術会（大津啓司会長）は、2003年から学生の自作によるフォーミュラスタイルのレーシングカーの競技会「学生フォーミュラ大会」を開催している。ものづくりの総合力を競いながら学ぶ場となる国際的な競技会を通じて、ものづくりを支える人材育成に取り組んでいる。

少子化による学生の減少に加え、若者の「理系離れ」は、優秀な技術人材の不足や将来の国際競争力の低下にもなりかねず、日本の自動車産業にとっても深刻な課題となっている。ま

た欧米と比較して、ものづくりに触れる機会が不足していることから、学生が実際にものづくりを通じて技術の理解を深め、実践的な能力を養い、より高いレベルに意欲的に挑戦する場として学生フォーミュラ大会を創設した。

学生がチームを組んで小型レーシングカーの構想を練り、企画・設計・製作する。審査では、ものづくりプロセスを多角的に評価。走行タイムや燃費、加速性能、旋回性といったレーシングカーの性能だけでなく、設計の適切さや革新性、加工性などのデザインや、製造・販売のロールプレイを通したプレゼ

ンテーション能力、さらにコストに見合っているかどうかを評価する。

学生にものづくりの機会を提供することで工学教育の活性化に寄与するとともに、車作りのすべてのプロセスを学ぶことで総合力を鍛え、日本の製造業をけん引する優秀な人材の育成と輩出を目指している。

新型コロナウイルス感染拡大のため20年大会は中止、21年大会は現地開催の中止を余儀なくされたものの、第1回大会から22年までに20回の大会を積み重ねてきた。その結果、学生のも

170社を超えるスポンサー企業が支援する、次世代のエンジニアを業界全体で育成する場としても成長。延べ2万5千人以上の学生フォーミュラOB・OGの多くが、自動車産業をはじめとしたものづくりの第一線で活躍している。

#### 【選考委員コメント】

レーシングカーの製作を通して、機械・電気など幅広い実践的な知識を習得できるとともに、性能向上や原価低減、商品性向上などにチャレンジしながら「自ら問題を発見し、解決していく能力の向上」が期待される。また、楽しさ、面白さを感じながらチームワークやリーダーシップを養うことにもつながる。日本の将来を担う人材育成へ、貴重な経験の場を提供し続けるとともに、業界を挙げた動きへと発展させている。

## 学生たちに貴重な経験の場を提供